

## 第4学年 道徳科学習指導案

日時 令和4年6月13日(月)第5校時  
対象 第4学年2組 31名  
授業者 辻 泰  
会場 3階 4年2組教室

### 研究主題

めあてに向かって主体的に学び、考える児童の育成  
～キャリア教育を通して～

#### 1 単元名

「思いやりのかたち」

#### 2 単元の目標

視覚障害者の女性に手を貸す「わたし」や、点字ブロックを考案した三宅さんの姿を通して、人を思いやることについて考えさせ、相手のことを自分のこととして想像し、親切な行為をすすんで行おうとする実践意欲と態度を育てる。

#### 3 単元の評価規準

道徳的価値の理解を基に自己を見つめる	道徳的価値の理解を基に多面的・多角的に考える	道徳的価値の理解を基に自己の生き方についての考えを深める
今までに自分が受けてきた思いやりを振り返り、自分も人に対して思いやりを表しているかを考えている。	思いやりの表れ方はさまざまであることについて考えている。	自分がしてもらってうれしかった思いやりについて考えたうえで、自分は人に対してどのような気持ちをもって接していこうかと考えている。

#### 4 単元設定の理由

##### (1)教材について

本時で扱う内容は、「相手のことを思いやり、自分にできることを行動に移すこと。」である。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。具体的には、相手の気持ちを考えたり相手の立場を想像したりすることを通して 励ましや援助をすることである。授業の中では、思いやりには様々なかたちがあるが、相手の気持ちや立場を考えて行動しているという点では、どのかたちも同じであるということに気付かせたい。その上で、これからは自分にできる思いやりのかたちをすすんで行おうとする実践意欲を育てていきたい。

## (2)児童の実態

本学級の児童 31 名に対し、「自分じゃない誰かのために行動したことがあるか?」「これから、学校全体や学級・学年のために頑張りたいことはあるか?」アンケートを行った。「自分じゃない誰かのために行動したことがあるか?」に対する回答は、82%があると回答していた。「これから、学校全体や学級・学年のために頑張りたいことはあるか?」にあると回答した児童の割合は 92% だった。どちらの回答も高水準であり他人のために行動することを肯定的に受け止めている子が多いという結果になっている。しかし、この時期の児童の特徴として、他の人々の感じ方や考え方が自分たちの感じ方や考え方と同じであると思いがちになり、自己中心的な考えから抜け出し切れていないことも考えられる。

## (3)教師の願いと指導の工夫

そこで、本時の学習を通して、思いやりには様々なかたちがあるが、どのかたちも相手の気持ちや立場を自分自身に置き換えて推し量った行動であるということに気づき、相手が望んでいることに寄り添った励ましや援助がすすんでできるような実践意欲を育てていきたい。

本単元の学習は、キャリア教育で育成すべき力である基礎的・汎用的能力のうち、「自己理解・自己管理能力」の育成にも関連する。「自己理解・自己管理能力」とは、小学校キャリア教育の手引き（改訂版）において、

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のためにすすんで学ぼうとする力である。

と記載されている。本単元において自分の生活を振り返り、今後の生活の中で学級・学年、学校全体のために、自分にできることは何かないだろうか?と考えるきっかけとなればよいと思う。

## 5 研究主題に迫るための手立て

### (1)教材文の中の思いやりのかたちを読み取る活動

世界で初めて点字ブロックを取り付けた三宅精一さんの行動も、目の不自由な女の人を誘導した主人公の行動も同じ「思いやりのかたち」であり、誰に対するどんな思いが込められていたのかを考える。

### (2)自分の生活について考えさせる活動

今までに自分がうけた「思いやりのかたち」を想起する。自分の行った「思いやりのかたち」を想起する。これからの生活の中で、自分はどんな「思いやりのかたち」をつくることができるだろうかを考える。


## 6 本時

### (1)本時のねらい

視覚障害者の女性に手を貸す「わたし」や、点字ブロックを考案した三宅さんの姿を通して、人を思いやることについて考えさせ、相手のことを自分のこととして想像し、親切な行為をすすんで行おうとする実践意欲と態度を育てる。

### (2)本時の展開

	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★研究主題に迫るための手だて
導入	1 点字ブロックについて知っていることを話し合う。 視覚障害者のために敷設してあるものであることを確認する。	・点字ブロックの画像（近所の道路）を提示し、点字ブロックについて知っていることを話し合う。
展開	<p>2 教師の範読を聞き、三宅さんと「わたし」の思いやりのかたちについて話し合う。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">思いやりについて考えよう。</p> <p>○三宅さんと『わたし』の思いやりのかたちは、同じだと思いますか、違うと思いますか。</p> <p>&lt;違う&gt;</p> <p>☆三宅さんは「点字ブロック」、「わたし」は「女の人の手助け」というところが違う。</p> <p>☆三宅さんは大勢の人の役に立っているが、「わたし」は一人だけ。</p> <p>&lt;同じ&gt;</p> <p>☆三宅さんも「わたし」も目の不自由な人の役に立っている。</p> <p>☆どちらも視覚障害者のことを考えて行動している。</p> <p>3 自分の生活の中で感じた「思いやりのかたち」を発表する。</p> <p>○あなたが最近、感じた『思いやりのかたち』は何ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消しゴムを忘れたときに貸してもらった</li> <li>・校庭に落としてきた帽子を拾ってもらった</li> <li>・足のけがで不自由しているときに階段を降りるときに補助してもらった。</li> </ul>	<p>・資料をすべて範読せず、大まかな内容を全体で確認する。</p> <p>・ワークシートに自分の考えを書かせ、自信をもって意見交流したり発言したりできるようにする。</p> <p>・資料の最後の「わたし」の様子から、自分なりの思いやりのかたちを表すことができたことで得られた喜びや達成感にふれ、今後の実践意欲につなげる。</p> <p>・具体的な「思いやりのかたち」を示せるように、問いかけを行う。</p>

	<p>4 今の自分にできる「思いやりのかたち」を考える。</p>	<p>★自分のこれからの行動について考える。</p>  <p>・視覚障害者や大変な思いをしている人についてはもちろん、日常生活において励ましや援助が必要な場面を想起させ、自分にもできる「思いやりのかたち」を考えられるようにする。</p>
<p>まとめ</p>	<p>5 本時の学習を振り返る</p>	

## 成果と課題

- ① 身近な出来事を思い出し、「思いやりのかたち」を考える活動が、「自己理解・自己管理能力」の育成に効果的だったか。

### 成果

- ・大画面モニターを使っでのプレゼンテーションや板書の工夫は視覚的な効果があり、資料を理解した上で、身近なことにつながられた。

### 課題

- ・「今の自分にできる思いやりのかたちは」にどのようなことが書かれていたかを分析すると、資料から抜け出せていない児童や、簡単に思いつく言葉が多かった。より広がりをもたせるためには、最終発問を「困っている人」に限定せず、「クラスの中で」のように身近なところで考えさせ、「自分のこれからの行動」のイメージを膨らませる等、方法や発問を工夫していく必要がある。

- ② 自分の生活について考えさせる活動が、「自己理解・自己管理能力」の育成に効果的だったか。

### 成果

- ・教材がとてもよかった。「思いやりのかたち」という言葉がよく、キャリア教育に非常に適した題材だった。

### 課題

- ・現段階では自分の周りの「思いやりのかたち」を見付けることに課題があった。自分の周りで見付けた具体的な内容を踏まえて、これからの自分の行動について考える活動を設定する必要がある。